

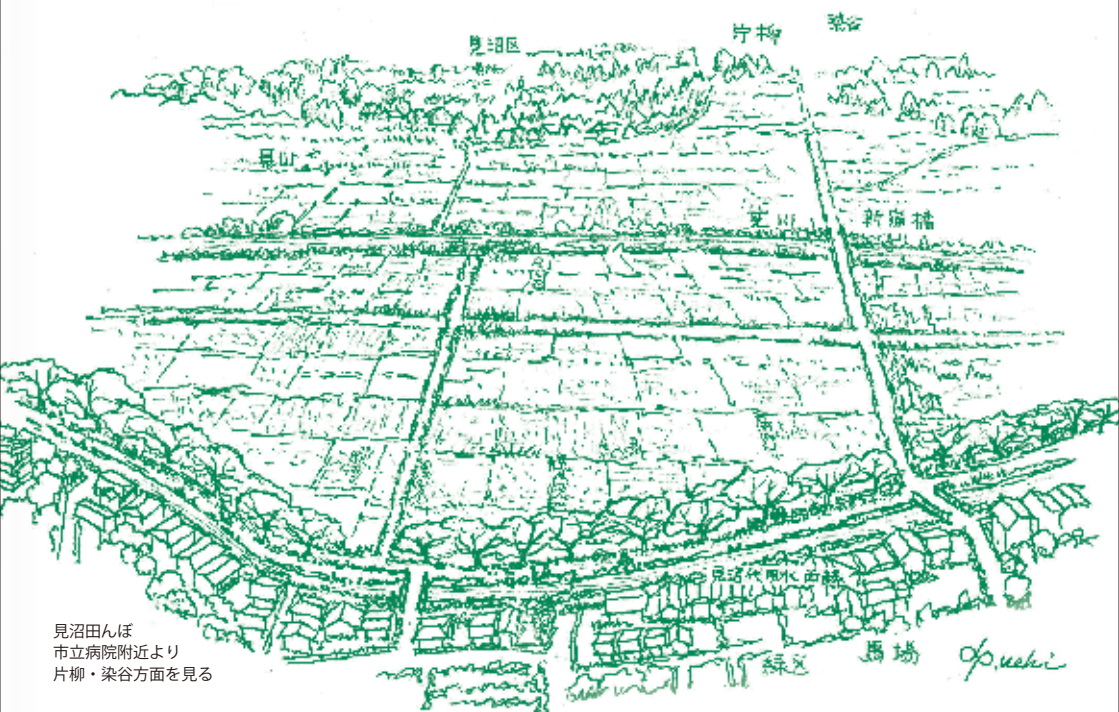
やどかりの里発！地域発見マガジン

大宮見沼

よみさんぽ

創刊号

特集 見沼田んぼの自然と人びと



見沼田んぼ
市立病院附近より
片柳・梁谷方面を見る

大宮見沼 よみさんぼ

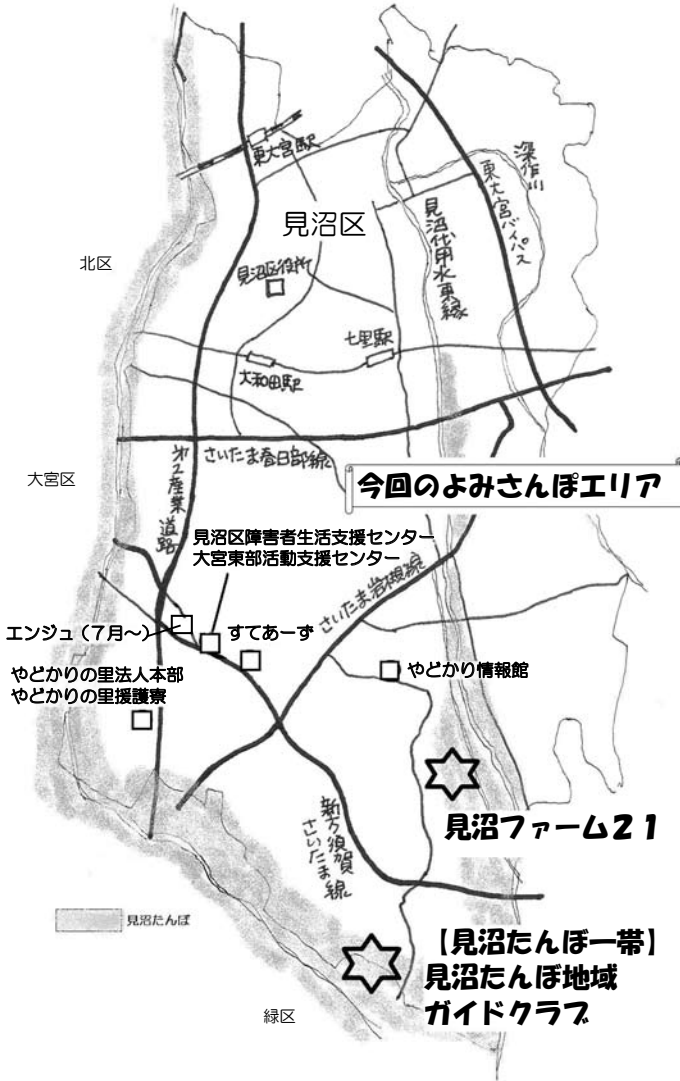
創刊にあたって

創刊号をお届けします。公益社団法人やどかりの里は、この大宮見沼界隈で障害のある人とともに地域で生きることを目指して活動を続けています。1970（昭和45）年に七里で産声を上げたやどかりの里は、現在300名あまりの障害のある人たちの働くこと・暮らすことを支えています。私たちは長年この地域で活動し、地域の皆さんに支えていただけてきました。そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたい、その2つの思いが「大宮見沼よみさんぼ」（季刊誌）の創刊につながりました。大宮見沼界隈のあれこれ取材し、発見していく本誌をともに育てていただければ望外の幸せです。

公益社団法人やどかりの里「大宮見沼よみさんぼ」
編集委員会



特集 見沼たんぼの自然と人々





見沼田んぼはさいたま市と川口市の東側に広がる1,260ヘクタール（東京の千代田区とほぼ同じ面積）の広大な緑地である。

私たち「公益社団法人やどかりの里」は見沼区に5か所（地図参照）の活動の拠点があり、天気の良い日の朝には、見沼田んぼの豊かな緑の先に（新都心のビル郡に邪魔されながらも）富士山がくっきり見え、その景色の美しさに見とれてしまう。

首都圏から近いこの場所になぜ、広大な自然環境が残されているのか、あの熱狂のようなバブル期をどのように乗り切って今、ここにあるのか？また初夏には大勢の子どもや家族連れが田植えをしている様子を目にして、誰が、どのようにこの田んぼを管理運営しているのだろう、といつも不思議だった。

そんな疑問を解消すべく、見沼田んぼ保全に関わっている方々にお話を伺った。そこには自然と郷土を愛してやまない人々の奮闘と物語があったのだ。今回はそんな自然と人々のご紹介である。

緑輝く見沼田んぼ その自然を守る市民たち

私たちの身近にある見沼田んぼへのさまざまな疑問を解消するために取材に出かけた。見沼田んぼについて調べ始めた時に「見沼田んぼの保全活動についてなら、島田さん」と多くの方々からお名前をお聞きし、まず「見沼ファーム 21」の島田由美子さんにお話を伺った。そして、島田さんから見沼たんぼ地域ガイドクラブのことを教えていただき、安達竹雄さん、北原典夫さんのお話を伺い、「見沼の味・家族・収穫体験ツアー」に参加した。見沼田んぼの魅力は尽きず、まだまだ取材に出向きたいところは満載だが、今号はこの2つの取り組みを紹介しつつ、市民の営みと自然について考えてみたい。

見沼田んぼは みどりの博物館

島田由美子さん

(NPO 法人見沼ファーム 21 理事長)



島田さんは見沼田んぼの保全活動に関わって 25 年、2010（平成 22）年にはその活動が高く評価され「第 5 回さいたま輝き荻野吟子賞」を受賞されている。

島田さんが旧大宮市議を務めていた 1980 年代半ばに（まさにバブル期）市から見沼田んぼにゴミ焼却灰を埋め公園化する計画案が提案される。開発か保全かで行政と激しくぶつかり合う時代を経て、1995（平成 7）年に県、さいたま市（旧大宮市・浦和市）、川口市で「さい

「たま環境創造基金」が設置され、行政が土地を買い取り、市民が保全するという合意に達する。

島田さんはそこから市民の役割とされた見沼田んぼの保全活動をすべく、手探りで米づくりを始めたのだ。当初 3,600 平方メートルの水田は現在では 20,000 平方メートルに及び、毎年、体験参加者を公募し、5月の田植えには 400 人を越える人々が参加し、秋には 7,560 キロもの米を収穫し「ありがと米」として周辺の福祉施設などに配布している。

島田さんは「見沼田んぼはみどりの博物館」と言う。自然そのままが博物館。そこには自然の生態系が残され、多くの生物が育まれている。

しかし、市民運動としての見沼田んぼの環境保全活動はさまざまな矛盾と対立の連続であったという。環境保全のために、田んぼを守る運動をすれば、農家は減反政策の中、土地を売れないというジレンマに直面する。それを行政が土地を買い、市民が保全するという方法で対立を脱却した。しかし、そのために市民には長い年月に耐えうる保全活動をし続けるという試練が課され、島田さんは保全活動のため人の輪を広げ、多様な取り組みを続けてきた。その結果として、「さまざまな人たちとの出会いがあったことは何にも代えがたい」と言う。市民と農家が出会うことで、お店で買うだけだった米がどのように食卓に届けられるか学び、最近では埼玉大学の学生も授業の一環として参加し、さらに地域子どもたちも加わって輪を広げている。



見沼たんぼを未来遺産に！

見沼たんぼ地域ガイドクラブ

見沼たんぼ地域ガイドクラブは、先に紹介した島田さんとともに、県庁の職員という立場から活動に参加された北原典夫さんたちが発起人となって見沼たんぼ地域の歴史・文化・農業・自然などを守り、見沼たんぼを訪れる人々に地域の総合的な情報をガイドするために、2011（平成23）年5月に設立している。また、サイサン環境保全基金の助成を受けて2010（平成22）年には、広くガイド候補を募集し、1年間かけてガイド養成講座を行い、現在は講座を終了した会員35名で1か月に2～3回のペースで四季折々の見沼たんぼガイドツアーを計画している。

北原さんは「見沼たんぼの保全是、首都圏の防災という点からみても重要。住宅密集地よりは緑地がある地域がより安全である」と指摘する。また、今年からは行政が買い上げた土地を、市民団体や県の外郭団体に管理委託するだけでなく、農家が作物を販売することを目的に借りることができるようになり、見沼たんぼで若い農業家が大規模

3月5日「見沼の味・家族・収穫体験ツアー」に参加

JR土呂駅からほど近い市民の森からガイドさんの丁寧な説明を聞きながら芝川沿いにゆっくり歩き、大宮第2公園の梅を楽しみ、寿能公園で見沼の昔話を聞き、途中、丸山農園でジャガイモとねぎの収穫体験まで用意されている。参加者はバギーにのった幼児から、高齢者まで幅広い、さまざまな年齢の人たちが無理なく見沼の自然に触れ、理解できるように工夫されたプログラムで、安心して参加できる。市民の森に戻ると、地元の季節野菜を使った昼食が待ち構えており、その味の美味しさと、ガイドクラブの皆さんの優しく、熱心な心遣いにとっても感激してしまった。

農業に取り組み始めているそうだ。

代表の安達竹雄さん、北原典夫さんは、見沼の自然を守っていくための課題として、息の長い市民活動が必要で、次世代にも活動をつなげていかなければならないこと、そのためには見沼たんぼで活動する団体の横のつながりが必要と感じている。市民活動を横につなげ、次世代に伝承できる活動をつくることはたいへんな事業であるが、北原さんは「難しいことは言わないで、みんな見沼たんぼを楽しんで、気持ちよく思ってもらうことが大事」と笑顔で言う。見沼たんぼ地域で活動している多くの団体は、見沼たんぼ地域を百年後の子どもたちに素晴らしい地域として伝えたいという思いから、見沼たんぼで活動する17団体でまとめ「未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会」を立ち上げた。そして今は（社）日本ユネスコ協会連盟の未来に伝えたい地域の文化・自然を守る市民活動「プロジェクト未来遺産」への応募と登録を目指して活動は続いている。見沼たんぼがなかったら触れ合うことがなかった人々が出会い、共鳴し合う。その結果、自然が守られ、人々の意識が変わっていく。島田さんや安達さん、北原さんたちは見沼たんぼを守り、人をつなげる素敵なコーディネーターなのだ。見沼たんぼはそんな人々のつながりと成長を暖かく見守ってくれるグリーンミュージアム、学びの博物館として、私たちの目の前にあり、それは百年後の子どもたちへの貴重な贈り物なのだった。

取材を終えて

見沼たんぼは首都圏から至近距離にある貴重な緑地帯であるが、そうであればこそ、市民がその自然を守り続けなければ緑地はその輝きを失ってしまう。島田さんや、見沼たんぼ地域ガイドクラブの皆さんの活動は使命感にも似て、多くの人々への熱いメッセージでもある。



○ 大車前の花に見沼の水にじむ
離れたるところにばかり葭雀

鈴木 征子

○ 静けさにたつ睡蓮の水明り
立ちどまり池のほとりの白日傘

鈴木すぐる

○ 見沼野の水かがやける初つばめ
きりきりと括り苗木の芽のさかん

吉井まさ江

○ 鶺鴒の子の潜りては鳴き又潜り
葭切や畑に傾ぎて猫車

小林のぶ子

○ この里の山影濃ゆき植田かな
満々と流る用水行々子

加藤 恵子

あなたの作品お待ちしております

大宮見沼界限をモチーフとした短歌
や俳句、イラストなどあなたの力作を
お寄せください。ハガキ、または封書
に必要事項（お名前、ご住所、電話番号）
を添えて左記の宛先までどしどしお送
りください！作品掲載の際にはご連絡
させていただきます。

※ご応募いただいた作品はお返しでき
ませんので、ご了承ください。

〒3337-0026 さいたま市見沼区
染谷1-7-14 やどかり情報館内
「大宮見沼よみさんば」編集委員会 宛

あなたの街のやどかりさん

宅配弁当屋エンジュ 健康を支える食の提供

こんにちは、エンジュです

見沼区中川にある火の見やぐらの前に立つと住宅街の一角にあるエンジュが見えてきます。障害のある人たちとともに弁当宅配の仕事をするエンジュの朝は忙しく始まります。朝8時過ぎには下ごしらえが始まり、11時に徒歩で、車で、配達に出発です。見沼区、大宮区のお宅に1軒1軒お弁当を届けています。休む間もなく夕食づくりが始まります。さいたま市社会福祉協議会からの委託（在宅高齢者等宅配食事サービス事業）で大宮区・見沼区・緑区の一部区域のひとり暮らしの高齢者の夕食弁当を作っています。昼食と夕食合わせ、1日200食前後の弁当を地域の皆さんにお届けしています。

1人1人が力を寄せ合って

エンジュには、50名ほどの統合失調症やうつ病など精神疾患を体験した人（以下、メンバー）が働いています。精神疾患のあることで疲れやすさや体調の波があって、企業などで働くことが困難な人たちがいます。エンジュは1人1人の体調や目標に応じて週に何日、1日何時間働くか、メンバーと相談して安定して働けるよう工夫しています。病気になって何年も働いていないため長時間働く自信がなく、1日30分働くことから始める人もいます。働く時間が短くても、弁当箱などの洗浄、おかずの盛付、配達など、1人1人がエンジュの弁当づくりの担い手なのです。

支え、支えられ

弁当は、ひとり暮らしのお年寄りや日中独居で見守りが欲しい、介護負担を減らしたい、障害があって嚥下が難しい、バランスのとれた食事をしたい……などさまざまな理由で利用されています。

厨房はいつもフル回転ですが、弁当を届けた時の「ありがとう」「ご

第1回

やどかりの里は精神障害のある人たちの暮らすこと、働くことを支えています。あなたの街のやどかりの里をご紹介します



苦労様」という言葉に元気を貰っています。配達担当のメンバーが休むと「今日は〇〇さん来ないんだね、大丈夫かい」と心配していただくこともあります。地域の人たちに支えられながら、エンジュで働く人たちは自信をつけ成長していきます。

7月、南中野で再スタート

弁当の食数が増え、働き手も増えてきたことから南中野に新築移転することになりました。この7月にオープンです。「エンジュがあったよかった」と皆さんに思っていただけけるように、末長く活動を続けていきたいと心新たにしています。(香野恵美子・エンジュ施設長)

エンジュ弁当はいかがですか。昼食 1食 550円

- *月～金のうちご希望の曜日にお届けします。
- *管理栄養士が献立をたて、栄養バランスのとれた弁当です。
- *おかゆ、刻み食などに対応致します。
- *食生活が気になる方、会社での昼食にもぜひお役立て下さい。

【献立例】月に1度のご当地メニュー。2月は福岡県でした。福岡県の香りをたっぷり盛り込み、ヘルシーに仕上げました。(管理栄養士 杉山久美)

がめ煮

筑前煮とも呼ばれ、もともとはスッポン(亀)を使っていたことから「がめ煮」。鶏肉と野菜がたっぷり入って、バランスも◎。



蒸し野菜明太子ソース

いちごかん

いちごはビタミンCが豊富で、低カロリー。食物せんいたっぷりの寒天との組み合わせで美容効果抜群です。

鯖の柚子こしょう焼

【お問合せ】エンジュ 見沼区中川 562 番地(7月より南中野 286 の1)
電話 686-7875 Fax686-7985

エンジュへの期待

小野寺博志さん

(南中野自治会長)



自然豊かな南中野に惹かれて

私は、40年前に北海道から上京し、大宮の盆栽町に住んでいました。家を構えたいと思い南中野に来て33年が経ちます。30年前は第2産業道路もなく、家の周りは竹やぶや沼があって白鷺が飛んで来て、こんないいところはない、と思ってこの地に住むことを決めました。

ここで世話になっているから

子どもを通じて自治会活動に関わるようになりました。まず、子供会に少年ソフトボール部を作り、そのうち親たちのソフトボールも始まって、自治会の活動もズルズルと……（笑）。この地でお世話になっているのだから自治会に関わるのは当たり前だと思っていました。朝6時に出

て夜中に帰るようなサラリーマン生活でしたが、土日は自治会活動に参加し、いろいろな人たちとの交流が広がりました。さまざまな人が関わるので時に意見が食い違うこともありますが、ゆっくり丁寧に、穏やかにお付き合いができればと思っています。

これからの課題は、防災と高齢者の見守り

これからは、防災と高齢者の見守りが大事だと思っています。私自身、防災士の資格を取り、先日、小学校の体育館にブルーシートを敷いて避難所体験をする「避難所訓練」をしました。高齢者の見守りといっても大げさなことではなく、さりげなく庭先で話すといった日頃の付き

合いを大切に、「おかしい」と思ったら行動できることが大事だと思います。「行政がやってくれる」と待つばかりでなく、自分たちで考えてやっていかないと防災や高齢者の見守りは進まないと考えています。

もちつもたれつ

エンジュが弁当を届けた時に、町内の方が倒れていると連絡をもらいました。本当にありがた

かったですね。放っておかない、ということが大事なんですよ。またチラシでのPRだけでなく、自治会行事に参加し、顔を合わせることで町内の人たちにエンジュを知ってもらうことも大事じゃないでしょうか。夏祭りや運動会等で弁当を出したり、お互いにもちつもたれつで南中野に溶け込んでいけるといいですね。

エンジュから

先日、ある利用者のお宅に弁当をお届けしたら、応答がなく、雨戸も閉まっている、とのこと。慌ててエンジュから利用者宅に電話するも何度かけても話し中。NTTに問い合わせると受話器が上がっている様子。90歳を越えてのおひとり暮らし、「もしかしたら……」という不安が募りました。個人宅に立ち入るなどの緊急対応はエンジュだけでは難しいと判断し、小野寺自治会長さんに協力を仰ぎまし

た。小野寺さんがすぐに駆けつけてくださって、民生委員さんとともに対応してくださいました。エンジュのスタッフから「無事でした。意識もありさっき救急車で搬送されました」との報告。小野寺さんからも「いやあ、ありがとうございます。助かりました」と言っていただきました。このような対応ができたのも自治会の皆さんの対応があったからこそです。安堵と感謝の気持ちでいっぱいでした。

埼玉県産小麦粉を使用 手づくりまんじゅう

まごころ



さいたま市中央区本町東 5-9-7
Tel. 048-857-2783 Fax. 048-857-2769

喫茶 味ズ



営業時間 月～土 10.00-17.00
さいたま市大宮区天沼町 1-136-2

募集

- ☆作品展示したい方
- ☆雑貨販売したい方
- ☆貸しスペースあります

詳細は ☎ 048-657-0202

天沼1丁目
大宮駅
スーパーバリュー
○大宮天沼店
喫茶ルポース

**YUM! YUM!
YUMMY!!**

<http://www.yadokarininosato.org>

世界中のテーマパークで愛されている
Gold Medal 社製
POPCORN

あなたの街のイベントやお祭りに呼んでください！出張します！

<http://www.yadokarininosato.org/>

公益 社団法人 やどかりの里 (さいたま市見沼区染谷 11774 やどかり情報館)

Phone. 048-680-1893 Fax. 048-680-1894

e-mail : print@yadokarininosato.org

おいしく食べて
健やかに

栄養バランスのとれた
お弁当で良生活を支えます



昼食 1食 550円

月～金、1食からお届けします！

- ※お好みや刻み食も対応します
- ※ご希望の曜日にお届けします

エンジュ 0686-7875

<受付> 月～金 (祝日を除く) 8:30～18:00

インフォメーションコーナーの
掲載広告を募集しています！

1 マス (64 mm * 46 mm) 5,000 円

こころの悩み、ちょっと話してみませんか…？



お住まいの区の障害者生活支援センターまでご連絡下さい



見沼区障害者生活支援センターやどかり	電話；048-682-1101
大宮区障害者生活支援センターやどかり	電話；048-795-4720
浦和区障害者生活支援センターやどかり	電話；048-793-6373

～精神障害のある方、そのご家族の地域の相談機関です～



公益社団法人 やどかりの里

すてあーず

南中野 844-22 イエローハウス
Tel/688-8223

布製品をオーダーメイド製作いたします！

お気軽にご相談ください。

1F リサイクルショップ「すてあーず」営業中！

Tel/687-4483 (直)



自分史や自伝を

本として残しませんか？

出版のプロが安心と信頼の技術を提供・サポートします

やどかり出版 さいたま市見沼区染谷 1177-4
Tel.048-680-1891 Fax.048-680-1894

新刊案内 プラクティス・3

助けてと言えない人たちのために
浅輪 田鶴子という生き方

浅輪 田鶴子 著

2012年1月
定価 1,260円
やどかり出版



事務用封筒・名刺・軽オフ印刷のことなら

あなたの街の印刷屋さん

やどかり印刷

Tel 048-680-1893 Fax 048-680-1894
さいたま市見沼区染谷 1177-4

大宮見沼 よみさんぽ

作者紹介

表紙絵 植木秀視さん (1941年生まれ) 見沼で暮らし30年。建築設計士としてエコシステムの家づくりを進める一方、見沼の自然、歴史、風土に魅せられ見沼田んぼの野草などのスケッチに励む。表紙絵は、さいたま市から依頼され見沼田んぼの写生をもとに描いたもの。

題字 宗野文さん (1975年生まれ) 学生時代から書道が大好きで、子育て中の今我が子とともに習字に再挑戦中。やどかりの里の作業所「すてあーず」所長。見沼区南中丸在住。

大宮見沼よみさんぽ 創刊号
発行 2012年4月(春号)
編集 「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷1177-4
Tel 048-680-1891
Fax 048-680-1894
E-Mail johokan@yadokarinosato.org
<http://www.yadokarinosato.org>
発行 公益社団法人やどかりの里
理事長 土橋敏孝
印刷所 やどかり印刷
定価 100円



素敵な作品を見ながら美味しいランチ♪

Café ギャラリー やつてるよ

毎月5, 15, 25日は、感謝デーランチ 300円

さいたま市見沼区片柳1-158-2
Tel 080-6602-3722 火曜定休

皆様からの寄附が税額控除の対象となりました

1人1人が主人公!

公益社団法人 **やどかりの里**

さいたま市見沼区中川562 Tel.048-686-0494
(2011年12月21日「公益社団法人」に移行しました)